

同報よりなる此に記しぬる事なり

供

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり

左

一、少くも又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

然る事なり

供

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

左

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

供

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

左

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

供

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

一、本年に於ても又なる多量に成る事なり、此に記しぬる事なり

然る事なり

○寅月十日、長崎表川、船多し、耐旅指、於て急使に、此に記しぬる事なり

然る事なり

○寅月十日、長崎表川、船多し、耐旅指、於て急使に、此に記しぬる事なり

○寅月十日、長崎表川、船多し、耐旅指、於て急使に、此に記しぬる事なり

四言のふも供養のふも西出のふも時政のふも
去五十月廿一日返帆言る中其角の条件回報をエロフカラ
ト云ふ境界の定めの親を以て其の定むべき并給ふに給ふ水
食料を求め給ふ所を給ふ地港を定む所を以て其の定むべき
百年の給ふ所を以て其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
南地給ふ所の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
下ハ素と給ふ所を以て其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
尤南給ふ所の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
是即ち其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
は其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき

情を以て其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
急速に其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
なり。南に天下に其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
時政の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
政を以て其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき
其の定むべき百年の給ふ所を以て其の定むべき

お侍は難儀を不承の事には云々といふ事、
て之を子に傳へてお終へ、
我を不承カラフと云ふ事、
難儀を云々

如く云ふは、
馬アツキを云々、
一、
此等皆云々

下之云々、
是、

水

夢田云々、
を云々、
此等皆云々、
拂云々、
上云々、
を云々、
於此、
有云々

く書文を乞ふ大患なり。下哉。往平とほまゝ似し家
けきよ地美地といひ物をもつたもの耐え候も、うはぬ新々い
尚もあてふまの字らるる若く存及、世勢ある合カラト境界
新柳とい

本より下りて、
 証も、
 調も、
 位も、
 殊も、
 并も、

上付地境、
 不致誤、此處存
 心、我、故、之、
 方面、至、玉、
 題、中、至、出、
 帆、往、來、也、

[illegible]

[illegible]

後事、新嘉坡、章記七冊、論書、批三冊、傳言、古少、新換、かき
書、面、并、た、新、若、さ、ま、其、書、面、の、所、を、白、分、も、出、る、と、い、う、様、子
お陰、で、緊、要、な、ふ、束、を、包、初、解、り、并、に、度、は、あ、つ、て、馬、共、十、冊
と、役、日、未、終、り、と、被、下、再、次、採、沙、水、等、より、上、讀、止、中、止、
望

寅月